

大王製紙が23/3期業績予想を下方修正 直ちに格付に影響しないが、今後の業績回復の道筋を注視

以下は、大王製紙株式会社（証券コード：3880）が23/3期通期業績予想を修正したことについての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は11月11日に業績予想の下方修正を発表した。23/3期の営業損益は140億円の赤字（前回予想は30億円の黒字）、親会社株主に帰属する当期純損益は300億円の赤字（同40億円の赤字）となる見通し。原燃料価格の高騰や急激な円安進行などによる製造コストの悪化が主な要因である。加えて22年9月に発生したいわき大王製紙におけるボイラー爆発事故による災害損失費用や、生産体制再構築を含めた構造改革費用の計上もマイナスに作用する。最終赤字は12/3期以来11年ぶり、営業赤字は上場以来初となる。
- (2) 最終赤字は300億円の見通しであるが、23/3期第2四半期末の自己資本は2,658億円と相応の財務耐久力を有しており、現時点で直ちに格付に影響しないとJCRでは判断している。想定を超える外部環境の変化を踏まえ、当社では生産体制の見直しやエネルギー政策の大幅な見直しなど構造改革を推進する計画である。また、引き続き徹底したコストダウンと主要各製品の価格改定に取り組む方針で、こうした施策を通じて早期に収益力の回復を図れるかどうかに注目していく。

（担当）本西 明久・村松 直樹

【参考】

発行体：大王製紙株式会社

長期発行体格付：A- 見通し：安定的

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル